とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1193
施設名	よつば保育園
施設所在地	東京都府中市緑町２－３１－８
法人名	社会福祉法人ゆたか会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

光・水

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
とても日当たりの良い園のため、毎年二階の部屋では子どもたちが窓からさす光に、オモチャの透明なパーツを照らして宝石など、興味や関心を強く持っていたため。

２．活動スケジュール

絵本コーナーにバブルチューブを設置してあるため、随時触れ合う時間は、どの学年にもあり、それぞれのクラスがクラス単位で、テーマを取り入れ活動していた。
5歳児クラスは、3回にわたり実施。
1歳児クラスは、5歳児の作ったものを使って遊びを広げていた。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
バブルチューブ
ポスターカラー
水性マーカーのインク
水
ペットボトル
ライト

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

バブルチューブを通して、水と光の関係性に興味を持ち、形作らない光というものをペットボトルや絵具を使い、自分たちの手で確かめてみる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

子どもたちがバブルチューブを見て「この光、どこからきてるの？」「なんで水が光っているの？」とつぶやいたことをきっかけに、光と水についての探究活動が始まりました。
まずはペットボトルの水だけを入れたものを、空にかざして、光の屈折を楽しんだりしている中で、水の中に色を加えたいというところから、さまざまな敷材を使い、色づくりがスタート。ものによっては、透過できない発見もあり、透過できる敷材集めをしました。ポスターカラーや絵具では透過率が低く、自分たちの身の回りにあるものを使い、マーカーを見つける。水に付けると色が付くことを発見する。透過率の高い水で、様々なものを見る中で、ペットボトルのデザインで周りの見え方が違うことがわかり、光の屈折が床に映ると興奮を隠せない。今度はライトを当てるとどうなるかを見ると、光の屈折に色がつき回すと綺麗な模様になることを発見していた。活動の中で新たな疑問も生まれ、子どもたち同士で考えたり、答えを探そうと試行錯誤する姿も印象的だった。
実体験を通して、子どもたちは光の性質に触れながら、「不思議」「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちを育めたように思う。身近にある“光”という触れられないものを形にして、自分たちの手で確かめる中で、考える力や友だちとの関わり、発見の喜びが自然と育まれる時間となった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

職員も加わり、子どもたちの発見や感動に共感することで、興味関心が大きく広がり、実践を通して意欲が大きく育てることができた。また共通の話題を持つことで友だちとのかかわりも、人とのかかわりの広がりもおおきく広がった。